



ユーザーガイド

ライブラリ、ChordPro

編集、コードダイアグラム、印刷とエクスポート、そしてオプションのクラウド同期 —
歌詞と演奏のための落ち着いた作業空間。

目次

1. はじめに

2. はじめての操作

3. 曲とライブラリ

4. ChordPro エディタ

5. ChordPro ディレクティブ

6. プレビューと再生

7. MIDI コントロール

8. フットスイッチコントロール

9. コードダイアグラム

10. インポートとエクスポート

11. 印刷と PDF

12. 同期と設定

13. バンドモード

14. アプリのデバッグログ

15. キーボードショートカット

はじめに

Songbook Buddy はマルチプラットフォームの ChordPro ソングエディタです。歌詞とコードを含む曲のライブラリを管理し、読みやすいレイアウトでプレビューし、コードダイアグラムを操作し、素材を共有または印刷するのに役立ちます。

主な機能

- 曲ライブラリ -- 曲の閲覧、検索、フィルター、並べ替え、アーカイブ、評価。
- ChordPro 編集 -- 構文サポート、検索／置換、よく使うディレクティブのクイック挿入による曲ソースの編集。
- ライブプレビュー -- 整形された歌詞とコードを表示；表示設定とレイアウトの調整。
- 再生 -- オプションの自動スクロール再生、演奏用のシアター（プレゼンテーション）モード。
- コード -- コードフィンガリング（ギター、ウクレレ、ピアノ）の閲覧と曲ごとの割り当てカスタマイズ。
- インポート -- 曲ファイルやフォルダの取り込み；コードタブでコードフィンガリングパックをインポート。
- 印刷と PDF -- 曲から印刷物または PDF を生成。
- 同期（設定時） -- 設定 からクラウド同期とアカウントオプション。

詳細はアプリ内の ヘルプ トピックを参照してください。または、ヘルプまたは設定から PDF ユーザーマニュアル を開くと、ダウンロード可能な単一ドキュメントを参照できます。

はじめての操作

レイアウト

ウィンドウは左側の  サイドバー  と右側の  メインエリアに分かれています。小さな画面では、メインエリア下部の 矢印ボタン でサイドバーを非表示にできます。




下部の  ステータスバーには、再生コントロール（曲を開いているとき）、移調、元に戻す／やり直し、印刷、インポート、統計、設定（環境設定）が表示されます。

タブ


サイドバーヘッダーで、以下を切り替えます。

- 曲 -- ライブラリと、選択中の曲の ChordPro エディタ／プレビュー。
- コード -- コード名検索、ダイアグラム、関連ツール。

曲を開く

リストから曲を選択します。中央には、モードに応じて  プレビュー  または  エディタが表示されます。編集 コントロールで ChordPro ソースの編集に切り替えます。

タッチ式スマートフォンと画面の向き

幅の狭いスマートフォン では、エディタとプレビューに横方向のスペースを確保するため、UI は通常 横向き に保たれます。シアター（プレゼンテーション）モード  は必要に応じて 縦向き も許可します。タブレット（例：iPad）にはこの制限はありません。

ヒント

- デスクトップ：多くの操作はアプリケーションメニュー（ファイル、編集、再生など）にもあります。

- タッチ：キーボードまたはタッチ UI
が有効な場合、エディタツールはオーバーレイボタンとして表示されることがあります。

曲とライブラリ

サイドバーのレイアウト

曲サイドバーのツールバーは2行に分かれており、画面が狭くてもフィルターに余裕があります。

- 1行目 -- 右側に検索フィールド（全幅）。
- 2行目 -- 左側にアーカイブ切替とセットリストフィルター ドロップダウン；右側に 評価の星 とリセット。


検索とフィルター

1 行目の フィルターフィールド
を使って、タイトル、アーティスト、アルバム、または曲本文で曲を絞り込みます。x
アイコンが表示されたらフィールドをクリアできます。または、リセット
ボタンで検索+評価+タグフィルターを一度にクリアできます。

アーカイブ

2 行目の左側にある アーカイブ
アイコンで、アーカイブ済みの曲を表示するかどうかを切り替えます。アクティブでない曲をメインリス
トから非表示にするのに使用します。

セットリストフィルター（Pro）

>  Pro 機能 -- Pro
ではないユーザーがドロップダウンをタップするとアップグレード画面が表示されます。

アーカイブ切替の隣にある セットリストフィルター
ドロップダウンを使うと、曲リストを単一のセットリストの曲に、セットリスト順で絞り込めます。タッ
プしてポップアップを開き、すべてのセットリスト
でクリア、または特定のセットリストを選択して絞り込みます。

このフィルターは セットリスト タブで開いているセットリストとは独立しています --
別のセットリストを選択しているときに、あるセットリストの曲をブラウズできます。バンドのライブ

セッション

中も使用可能です：リーダーが演奏しているとき、ドロップダウンは自動的にリーダーのアクティブなセットリストに追従するので、タブを切り替えなくてもサイドバーがリーダーのものをミラーします。

評価フィルター

2 行目の 星 で 最低評価 フィルターを設定します。星のレベルをタップすると、その数以上の星を持つ曲だけが表示されます。再度タップでクリアします。

並べ替え

フィルターバーの下にある 更新日時、タイトル、アーティスト で並べ替えます。アクティブな列には昇順または降順を示す矢印が表示されます。

新しい曲

+ ボタンは新しい曲エントリを作成します（現在のタブで使用可能な場合）。

インポートのショートカット

並べ替えコントロールの隣にあるインポートアイコンの行（またはデスクトップの ファイル メニュー）から、単一ファイル または曲の フォルダ をインポートできます。

ChordPro エディタ

編集

編集モード が有効なとき、ChordPro テキストフィールドを編集できます。変更は 設定 の 自動保存 間隔に従って保存されます。

プレビュー（レンダリング表示）

プレビュー はエディタと同じ ChordPro ソースを使用します。長い歌詞行はパネル幅に合わせて折り返されます（音節の上にコードを揃えるために行中で使用する スペース も含む）。

プレビュー内のコード（歌詞エリア）

デスクトップ（マウス／トラックパッド）では、メインプレビュー（歌詞行）のコードを 右クリック すると、小さなメニューが開きます。

- 割り当て… -- このコード出現に対するフィンガリングを選択（通常のクリックと同じ）。
- 割り当てを解除 -- この出現ごとの形状オーバーライドのみクリア；コード記号は曲に残ります。
- 行から削除 -- この位置の ChordPro ソースからそのコードの [...] タグ を削除します（歌詞は残ります）。コード編集が無効な再生中またはプレゼンテーションモード中は使用できません。

プレビューの 上部または側面 にある 使用コード ストリップ（ダイアグラム）はこのメニューを使用しません：ダイアグラムをタップして形状を割り当てるか、そこからドラッグして歌詞内のコードを移動します。

末尾のスペース

ドキュメントの 先頭と末尾のスペース は、編集中および 自動保存 中も保持されるため、ソースの整列やスペースが期待どおりに動作します。

別の曲に切り替える とき、アプリを閉じる（デスクトップウィンドウ）とき、またはライブラリから曲を開く とき、アプリは保存前にこれらの外側のスペースを トリミング することがあります --

つまり、ファイルの先頭または末尾の余分な空白は、これらの境界でクリーンアップされ、キー入力ごとには行われません。

検索と置換

メニューまたはエディタツールバーから **検索**（および利用可能であれば **置換**）を使用します。前へ / 次へ で一致を移動し、終わったらバーを閉じます。

ChordPro を挿入

挿入

ツールはスニペットのコンパクトなカタログを開きます（メタデータ、セクションブロック、新しいコード プレースホルダー、曲で すでに使用されているコード など）。デスクトップの通常（最大化されていない）レイアウトでは、項目が サブメニューとして表示される場合があります；それ以外では、フローティングパネル または ボトムシートとして開きます。任意の ChordPro ディレクティブを手動で入力することは常に可能です -- カタログには一般的なショートカットのみが表示されます。

カタログには新しいカスタムブロック エントリ（Pro）も含まれています。これを選択すると、`{start_of_block:} ... {end_of_block}` が挿入され、カーソルがコロンの後のラベル位置に置かれるので、すぐにブロックタイトルを入力できます。空でない選択範囲がある場合、エントリは選択範囲をカスタムブロックで 囲み ます。Pro ではないユーザーがカスタムブロックスニペットを選択すると、アップグレード画面にリダイレクトされます -- 他のすべてのスニペットは無料プランでも動作します。パーサーがディレクティブをどのように処理するかの詳細は、ChordPro ディレクティブ → カスタムブロック を参照してください。

最大化

エディタを最大化

すると、サイドバーとプレビューが非表示になり、テキスト列が全幅を使用できます。このモードでは、ChordPro 挿入 ストリップがエディタの横に 表示されたままになります（ヘッダーにピンアイコンはなく、ストリップは常に表示されます）。検索 の隣にある別の挿入 ボタンは、ストリップがすでにあるため、最大化中は非表示になります；検索は引き続き使用可能です。

元に戻すとやり直し

ChordPro 編集は、ステータスバーまたはアプリケーションメニューから **元に戻す** と **やり直し**

をサポートし、現在の曲に範囲を限定します。

Songbook Buddy の ChordPro ディレクティブ

このページでは、Songbook Buddy が実際に実装している機能のみをリストします：トークン化／パース、プレビュー、ChordPro Buddy (CPB) スキャン、{…} 範囲を破棄または保持する保存／インポート時のクリーンアップ。

表記：[C] は次の単語または音節にコードを配置します。# で始まる行はコメント行として扱われます。

メタデータ ({key: value})

トークナイザーは、これらの短いキーを曲メタデータマップに到達する前に正規化します。

| 長いキー | 短い形式 |
|------------------|------------|
| `title` | `t` |
| `subtitle` | `st` |
| `artist` | `a`, `art` |
| `author` | `au` |
| `key` | `k` |
| `comment` | `c` |
| `comment_italic` | `ci` |

{name: …} のその他の識別子も汎用メタデータとしてパースされます (AST では各キーの最初の出現が優先されます)。

プレビューヘッダーは次のキーのみを使用します：title、subtitle、artist または author、album、key、capo、tempo、time。他のキーは AST に影響することはありませんが、そのヘッダー行には影響しません。

保存された ChordPro に保持されるキー (ストリップ後)

保存またはインポート時、{…} は構造的ディレクティブ (セクション、レイアウトブレイク) であるか、またはそのキーがアプリの保持リストにある場合を除き、削除されます。そのリストには次のような項目が含まれます：title、subtitle、artist、composer、lyricist、copyright、album、year、key、time、tempo、duration、capo、meta、comment、comment_italic、sorttitle、define、chord、textfont、textsize、chordfont、chordsize、columns、grid、pagetype、pagewidth、pageheight、image、footer、toc、doctype、lang、および verse、chorus、bridge、intro、outro、prechorus、pre_chorus のようなスタンドアロンセクションラベル。

このリストにないもの (例)：license、tag -- これらは保存されたテキストから削除されます。

{year: …} はソースに保持されますが、プレビューヘッダーには表示されません。

コメント

- {comment: …} / {c: …} -- コメントセクション（プレビューでは通常の太さ）。
- {comment_italic: …} / {ci: …} -- イタリックのコメントセクション；カポ（{capo: …}）とは無関係です。

セクションペアとラベル（値なし -- {name} のみ）

開始 / 終了（この形式では :value なしで現れる必要があります）：


| 開始 | 終了 | 短形 |
|---|---|-----------------|
| `start_of_verse` | `end_of_verse` | `sov` / `eov` |
| `start_of_chorus` | `end_of_chorus` | `soc` / `eoc` |
| `start_of_pre_chorus` または `start_of_prechorus` | `end_of_pre_chorus` または `end_of_prechorus` | `sop` / `eop` |
| `start_of_bridge` | `end_of_bridge` | `sob` / `eob` |
| `start_of_tab` | `end_of_tab` | `sot` / `eot` |
| `start_of_grid` | `end_of_grid` | `sog` / `eog` |
| `start_of_lyrics` | `end_of_lyrics` | `sol` / `eol` |
| `start_of_comment` | `end_of_comment` | `socm` / `eocm` |

start_of_comment / end_of_comment は、トークナイザーで 歌詞ブロックのようにパースされます（コメントブロック）。

スタンドアロンラベル（次のセクションまたは EOF まで継続）：verse、chorus、bridge、intro、outro、prechorus、pre_chorus。

{chorus} 単独は Buddy では セクションラベル であり、完全な仕様の「コーラス再生」ではありません。

カスタムブロック（Pro）

>  Pro 機能 -- カスタムブロックの表示は誰でもできます；エディタメニューから 挿入するにはアクティブな Pro サブスクリプションが必要です。

verse / chorus / bridge / pre-chorus / intro / outro でカバーできない場合、任意の数の行をカスタムブロック で囲んで独自のタイトルを付けることができます：

```
chordpro
{start_of_block: Solo}
[Em] [G] [D] [Am]
{end_of_block}
```

コロンの後のラベル（例の Solo）は曲ビューでブロックの上に表示されます。コロンを空にする -- {start_of_block:} -- と、レンダラーは汎用の BLOCK ラベルにフォールバックします。

パーサーは、組み込みではない（verse、chorus、pre_chorus、bridge、tab、grid、lyrics、comment、footer）任意の環境名に対する、より一般的な ChordPro 6 形式 {start_of_<env>: Label} … {end_of_<env>} も受け付けます。したがって、{start_of_solo: Lead} … {end_of_solo} は start_of_block と同じように動作します。

スタイルとインデント

カスタムブロックには、verse／chorus／bridge とは別に、独自のタイポグラフィとインデント設定があります：

- フォーマット → フォント設定 → カスタムブロック
でフォントファミリー、サイズ、太さ、イタリックフラグを設定。
- フォーマット → インデント → カスタムブロック で本文のインデント幅を制御（スケール 1.0 で 0 ～ 144 論理ピクセル）。

これにより、コメントアウトしたセクションマーカをやりくりすることなく、「Solo」ブロックを verse とは異なる外観にできます。

レイアウト（コロンなし）

- new_page、np、new_physical_page、npp
- column_break、colb、cb

これらはパーサーで消費されます；スクロールするプレビューでは目に見えるページ／段区切りが表示されない場合があります。保存時にソースに保持されます（構造的／レイアウト）。

ChordPro Buddy / CPB スキャン（行全体またはインライン断片）

「未知のディレクティブ」のストリップ 前 に処理されます。認識されたアイテムはテキストから 削除され、注記がある場所ではアプリのフィールドにコピーされます。

移調（半音、保存時に -11…+11 にクランプ）：{transpositionLevel:N}、{transpose:±N}（ChordPro 標準）、行内のインライン形式を含む。

再生時間（秒）：{playtime:N}、{duration:N}

（曲の再生時間として同じ数値の意味）、インライン形式を含む。playtime が設定されると、再生設定 JSON のスナップショットが保存される場合があります。

表示（曲の保存された表示設定にマージされる）：{font:section,...} で section は title、subtitle、lyric、chorus、comment、tablature のいずれか；{linespace:...}；{print_chords:yes|no}、{print_major:...}、{print_minor:...}、{print_seventh:...}、{print_bemol:...}、{print_bass_not_root:...}

（行全体または実装されている箇所ではインライン）。

マッピングなしでストリップ（テキストからのみ削除）：{color:...}、{chordChartSize:...}、{left_margin:...} / {right_margin:...} / {top_margin:...} / {bottom_margin:...}、{print_orientation:...}

（必要に応じてインラインバリエーションも）。

既存の表示設定がある状態で 保存 すると、CPB の {font:...} / {linespace:...} / print_* は、ゼロから置き換えるのではなく、現在の曲の表示設定に マージ されます。

インポート

ChordPro ファイルは、曲行が書き込まれる前に 2 つのステップを通過します：

1. parseCpbDirectives -- CPB / 移調 / 再生時間 / 表示関連の行と断片が解釈され、文字列から 削除 されます。値はインポートペイロード用にメモリ内に保持されます。
2. stripUnrecognizedChordProDirectives -- 残っている {...} のうち 構造的でない かつ保持キーリストに ない ものはテキストから 削除 されます。削除されたタグのみを含む行は空行として保持されません。

したがって、未知のディレクティブ はインポーターを クラッシュさせません：それらは 保存された ChordPro

から消えます（およびその保存テキストから抽出された汎用メタデータからも）。他のツールへのラウンドトリップのために珍しい ChordPro タグを保持する必要がある場合は、そのキーが保持セットにあることを確認するか、アプリの外にコピーを保存してください。

Songbook Buddy 自身のフィールドへのマッピング（典型的な ChordPro インポート）：

| ソース（最初に有効に一致する行） | 曲フィールド / JSON |
|--|------------------------|
| `{title:...}` / `{t:...}` | `title`（フォールバック：ファイル名） |
| `{artist:...}` / `{a:...}` / `{composer:...}` / `{author:...}` | `artist` |
| `{album:...}` / `{al:...}` | `album` |
| `{key:...}` / `{k:...}` | `songKey` |
| `{capo:...}`（整数） | `capo` |

| | |
|--|---|
| <code>`{tempo:…}`</code> （整数） | <code>`tempo`</code> |
| CPB 移調 | <code>`transposeSteps`</code> |
| <code>`{playtime:…}`</code> / <code>`{duration:…}`</code> | <code>`playtime`</code> 、 <code>`playbackSettings`</code> |
| CPB <code>`font`</code> / <code>`linespace`</code> / <code>`print_`</code> | <code>`displaySettings`</code> |

完全にクリーンアップされた ChordPro 文字列は `chordproText` になります。

エディタから保存 する際にも同じ正規化パターンが使用される（ChordProPersistPlan）ため、エディタとインポートの一貫性が保たれます。

アプリでの使用

- ChordPro エディタでソースを編集；`.cho`、`.chordpro`、`.txt` などにはインポート を使用。
- プレビューと印刷はパースされた曲を使用；ヘッダーチップは表示トグル（タイトルブロック、作者ブロック、キーブロック）に従います。

プレビューと再生

プレビュー

非編集モードでは、中央に整形されたプレビュー（歌詞、コード、セクション）が曲表示とレイアウト設定を使用して表示されます。利用可能な場合は、曲設定 / フォーマットコントロールからスケールとフォントを調整します。

幅の狭いスマートフォンでは、プレビュー（曲タブ）でピンチ操作により表示スケールを段階的に変更できます（曲設定と同じ）。大型タブレット（例：iPad）では、代わりにステータスバーのスケールコントロールまたはハードウェアキーボードの ⌘/Ctrl+←/→ を使用します。 -- タブレットでは、スクロールとシステムジェスチャの信頼性を保つため、プレビューでピンチは使用しません。

デスクトップでは、歌詞エリアのコードに対する右クリックメニュー（割り当て、割り当て解除、行から削除）はヘルプの ChordPro エディタで説明されています。プレビューの横または上にあるオプションの使用コードストリップはタップとドラッグのみを使用し、そのメニューは使用しません。

フォーマットサイドバー -- フォント（Pro）

>  Pro 機能 -- Songbook Buddy Pro が必要です。

サイドバーのフォーマット→フォント設定を開きます。各行（タイトル、コーラス、バースなど）には Aa ボタンと サイズスライダー があります。Aa をタップしてフォント、サイズ、太字、イタリックを設定します。

- 変更は即時適用されます（個別の OK はありません）。x で閉じるか、カードの外をタップします。リセットはカードを開いたときの状態にフォントとスタイルを戻します。
- カードにキーボードフォーカスがある状態で、↑ / ↓ はドロップダウンリストを開かずにフォントファミリーを移動します。
- ブラウズはライブラリを開きます：Google Fonts ライブラリ タブ、およびデスクトップでは .ttf / .otf ファイル用の このコンピューター タブ（プロンプトに従ってフォント フォルダ を追加）。

- 設定 → フォント には、ダウンロード済みフォントとこのデバイスから アクティブ化したフォントが一覧表示されます（デバイスフォントを削除してもディスク上のファイルは残ります）。

Aa に オレンジの枠線 と 警告アイコン が表示された場合は、ホバーまたは長押ししてください -- 曲が Songbook Buddy のアクティブリストに ない フォントを参照しています；システムデフォルト、設定 → フォント、またはこのコンピューター で修正してください。

シアター（プレゼンテーション）モード

シアター または プレゼンテーション モードは、パフォーマンス用にプレビューに焦点を当てます：注意散漫が減り、レイアウトは離れた場所からの読み取りに最適化されます。入ったときと同じ方法で終了し、通常のレイアウトに戻ります。

設定 → 一般 → 動作 のシアターモード中は画面をオンに保つ（既定でオン）は、シアターモードが有効でアプリがフォアグラウンドにある間、ディスプレイのスリープやロックを防ぎます；アプリがバックグラウンドにあるときは、画面は通常通りスリープできます。

再生

コンテンツのある曲では、ステータスバーから 再生、一時停止、停止 ができます。停止すると通常はスクロール位置が先頭に戻ります（提供される場合は画面上のヒントを参照）。再生中に タイムライン で進行状況が表示されることがあります。

移調

ステータスバーの 移調 シャープ／フラットコントロールと リセット ボタンは、曲のキーを半音単位でアプリの上限内で変更します。これはコードの表示と再生方法に影響しますが、移調を保持することを選択しない限り、生の ChordPro には影響しません。

MIDI コントロール

>  Pro 機能 -- アクティブな Songbook Buddy Pro サブスクリプションが必要です。

MIDI コントロールは、外部ハードウェア（フットスイッチ、ペダルボード、ルーパーアプリ）が Songbook Buddy 内でアクションをトリガーすることを可能にし、Songbook Buddy が自身の再生や選択状態が変化したときに MIDI を出力できるようにします。デバイス → MIDI にあります。

ポート

サイドバーには 2 つのリストが表示されます：入力（受信元）と出力（送信先）。ポートをチェックして開きます。USB デバイスは自動的に表示されます。ネットワーク／RTP-MIDI の場合、OS のセッションが実行されている必要があります -- macOS の Audio MIDI 設定 → ネットワークを開いてセッションを作成または参加してから、ピアがここに表示されます。

サイドバー下部の Panic は、有効なすべての出力のすべてのチャンネルに All Notes Off と All Sound Off を送信します -- 何かがハングしたときの安全網です。

入力マッピング -- MIDI がアプリのアクションをトリガー

入力リストの各行は、1 つの MIDI メッセージを 1 つのアプリアクションにルーティングします：

- デバイス -- このマッピングがリッスンするポート。「任意のデバイス」はすべての有効な入力に一致します。
- タイプ -- メッセージの種類（下記の概要を参照）。
- チャンネル -- チャンネルボイスメッセージは 1～16；システムリアルタイム（Start／Continue／Stop／Clock）では無視されます。
- ノート / CC -- タイプに応じて、キー番号、コントローラー番号、またはプログラム番号。
- 値 -- CC / NoteOn の場合：特定の値に一致させるか、「任意」のままにして任意の値で発火させます。
- アクション -- メッセージが到着したときにアプリが行うこと（再生／一時停止、停止、次の曲など）。

学習（各行の卒業帽アイコン）：押してから、デバイスのボタンを押します。次に到着するメッセージが、選択済みのアクションを保持したまま、行のデバイス／タイプ／チャンネル／ノート CC／値を上書きします。最初に + 追加を押して、希望のアクションで空の行を作成し、それに学習させます。

複製（コピーアイコン）：行を複製します -- アクションを共有する 2
つのバリエーションを構築するのに便利です。

繰り返しの同一メッセージは、不安定なフットスイッチが 2 回発火しないように 50
ミリ秒のデバウンスがかかります。

出力マッピング -- アプリイベントが MIDI を出力

各行はアプリイベントを 1 つの出力 MIDI メッセージに変換します：

- イベント -- 再生開始／停止、曲が選択された、セットリストエントリが変更された。
- デバイス --
この出力のみがメッセージを受信、または「任意のデバイス」で有効なすべての出力にブロードキャスト。
- タイプ、チャンネル、ノート / CC、値 -- 送信するメッセージ。

メッセージは、少なくとも 1
つの一致する出力が有効になっている場合にのみ送信されます。それ以外の場合、送信は静かに破棄されます。

永続性

マッピングはこのデバイスにローカルに保存され、アプリの再起動を超えて維持されます。デバイス列は特定のローカル MIDI ポート ID を指すため、他のデバイスとは同期されません -- 同じデバイスでも、別のマシンでは異なる ID になります。

メッセージタイプ概観

NoteOn

- 意味: キーが押された。

- パラメータ: ノート（音高）、ベロシティ（強さ）。
- 実用: 音を開始するかイベントをトリガー。
- 注意: ベロシティ = 0 はしばしば NoteOff と解釈されます。

NoteOff

- 意味: キーが離された。
- パラメータ: ノート、リリースベロシティ（オプション）。
- 実用: 音を停止。

CC（コントロールチェンジ）

- 意味: 連続コントローラー。
- パラメータ: CC 番号（0～127）、値（0～127）。
- 実用: ノブ、フェーダー、ペダル。
- 例: CC1 = モジュレーション、CC7 = ボリューム、CC64 = サステインペダル。
- 自動化とマッピングに最も便利なタイプ。

PC（プログラムチェンジ）

- 意味: プリセット切替。
- パラメータ: プログラム番号（0～127）。
- 実用: 音色／パッチを変更（例：シンセプリセット）。

Start

- 意味: シーケンサーを開始。
- 実用: 先頭から再生を開始。
- 典型的な使用: MIDI クロック同期。

Continue

- 意味: 再開。
- 実用: 先頭ではなく、最後の位置から再開。

Stop

- 意味: シーケンサーを停止。
- 実用: 再生を停止。

マッピングのタイプを選ぶ

- NoteOn / Off -- ボタンとトリガーに最適。
- CC -- 連続コントロールに最適。
- PC -- モード／プリセット切替。
- Start / Stop / Continue -- トランスポート制御（再生／停止のような）。

フットスイッチコントロール

>  Pro 機能 -- アクティブな Songbook Buddy Pro サブスクリプションが必要です。

フットスイッチコントロールは、Bluetooth または USB のフットスイッチで再生／一時停止、次の曲、前の曲 などのアクションをトリガーできるようにします -- 画面に手を伸ばす必要はありません。デバイス → フットスイッチ にあります。

仕組み

ほぼすべての音楽用フットスイッチは、Bluetooth または USB を介して キーボードとしてオペレーティングシステムに認識されます。OS の設定（Bluetooth / システム設定）で一度ペアリングすれば、各ペダルの押下によってキーコードが送信され、Songbook Buddy がそれをアプリのアクションにマップできます。

OS のキーボードストリームをリッスンしているため、Songbook Buddy 自体にはペアリングのステップはありません -- ペダルがデバイスのテキストエディタに文字を入力するなら、ここでも動作します。

互換デバイス

- AirTurn (BT-200S / DUO / QUAD / PEDpro) -- テスト済み。各ペダルが専用のキーを送信するように、HID Keyboard モード（通常「Mode 2」）にしてください。
- PageFlip (Firefly、Dragonfly、Butterfly) -- 動作するはずですが、修飾子の組み合わせを使用するため、4 つのペダルでより多くのアクションにマップできます。
- BlueTurn / BT-105 -- 動作するはずですが。
- Elgato Stream Deck Pedal -- Stream Deck アプリでキーボードショートカットを送信するように設定すれば動作します。
- 汎用 USB フットペダル -- キーイベントを送信するようプログラムできるペダルなら何でも。

MIDI フットスイッチはこの画面を使用しません -- デバイス → MIDI でマップしてください。

マッピングを追加する

1. + 追加 を押して空の行を作成します。
2. 希望の アクション を選択します（再生／一時停止、次の曲など）。
3. 学習（卒業帽アイコン）を押してペダルを踏みます。次のキー押下が行のキー＋修飾子を上書きします。
4. 各ペダルに対して繰り返します。

複製（コピーアイコン）は行を複製します -- 2
 つのペダルでアクションのバリエーションを共有する場合に便利です。

同じペダルの繰り返し押下は、接触バウンスで 2 回発火しないように 80
 ミリ秒のデバウンスがかかります。

シングルタップとダブルタップ

各マッピングには トリガー 列があります：シングル（既定）は 1 回の押下で発火、ダブル は 300
 ミリ秒以内に同じキーが 2 回押されたときに発火します。両方をカバーするため同じキーに 2
 行を追加します -- 例：AirTurn BT-200 S2：

- 左ペダル -- シングル → 再生／一時停止、ダブル → 前のセトリストエントリ
- 右ペダル -- シングル → 停止（巻き戻しも）、ダブル → 次のセトリストエントリ

キーにダブルタップマッピングがある場合、シングルタップアクションは 2
 回目のタップが来るかを確認するため約 300
 ミリ秒遅延します。ダブルタップマッピングのないキーは即座に発火します。

AirTurn は HID Keyboard モードでシングルタップとダブルタップに 同じ キーコードを送信します --
 区別はペダル内ではなく Songbook Buddy 内で行われます。

マッピングが無視される時

- 有効（サイドバー上部）がオフのとき。
- テキストフィールドにフォーカスがあるとき --
 エディタ、タグチップ、検索バーへの入力が続きます。シアター／プレゼンテーション
 モードはこれを上書きするので、ステージ上でもページ送りができます。

永続性

マッピングはこのデバイスにローカルに保存され、アプリの再起動を超えて維持されます。ペダルのキーコードはペダルのモードと OS のレイアウトによって異なる場合があるため、他のデバイスとは同期されません。

コードダイアグラム

コードタブ

コード タブで、コード名 を選び、必要に応じて 楽器 / チューニング（弦楽器の場合）を選択します。アプリは楽器に応じて フィンガリング または ピアノボイシング を一覧表示します。

コードタブの ダイアグラムサイズ スライダーは、楽器ごとに別々に記憶されます（ギター、ウクレレ、ピアノなど）ので、他の楽器のダイアグラムを変更せずに、ある楽器のダイアグラムをズームできます。

スラッシュコード（ベース音）

ルートとクオリティの隣にある ベース ドロップダウンを使用して、G/B や Am7/G のような記号を作成します。なし を選択するとベースをクリアします。曲内の同じスラッシュ構文（例：[G/B]）は、コード名のパース時に認識されます。

ギター と ウクレレ では、フィンガリングリストは可能な限り最低音が選択されたベースと一致する形状を優先します；既定セットに一致がない場合、アプリはより広範な検索を実行して適切な形状を探します。

ピアノ では、提案されるボイシングはベースが設定されているとき、スラッシュ音を左手でベースとして使用します。

ルートとベースのダイアグラムカラー（コードタブ）

コードタブのサイドバーにある ルートとベースのダイアグラムカラー スイッチは、そのタブ上のみ でアンバー（ルート） と バイオレット（ベース）のハイライトをオン／オフします。オフのとき、コードトーン ドットのみがテーマアクセントカラーを使用し、凡例はルートとベースを隠します。曲の レンダリング プレビューと エクスポートされた PDF は、代わりに 設定 → 一般 → プレビューと PDF のカラーコードダイアグラム に従います。

ダイアグラムのアクション

ダイアグラムには、お気に入り、ボイスिंगの再生（オーディオが利用可能な場合）、現在の曲への形状の割り当てなどのアクションが提供される場合があります。

フィルター

フィルター（例：一般的な形状）を使用して、ギターまたはウクレレのフィンガリングリストを絞り込みます。


フィンガリングの割り当てと編集

リストから フィンガリング または ボイスिंग を選び、現在の曲に 割り当てます（ダイアグラムアクションまたは割り当てダイアログから）。割り当ては曲の表示設定（コードフィンガリングマップ）に保存され、プレビューとエクスポートで使用されます。

コード割り当てダイアログ（コードを右クリック、またはコードチャートをタップ）



曲ビューの任意のコードをタップ（またはエディタで右クリック → 割り当て…）すると、コード割り当てダイアログが開きます。ダイアログには、コード名と現在の楽器 + チューニングに合うすべてのフィンガリング／ボイスिंगが表示されます。以下が可能です：


- 一般的な形状／フレット範囲で フィルター して長いリストを絞り込みます。
- ツールバーのスライダーで ダイアグラムサイズを調整：左アイコン＝小、右アイコン＝大。ダイアログ内のプレビューにのみ影響します。
- 2つ目のスライダーで コード記号フォントサイズを調整（0 % … 150 %、Pro）。各カードの上にあるコード名タイトルが大きくなります；ドット／指のグリフと「Nfr」基準フレットラベルはジオメトリ駆動のサイズのままです。設定はグローバルです -- 一度変更すると、コード名ラベルは描画されるすべての場所で同じようにスケーリングされます（コードタブのカード、曲ビューのサイドコードチャート、歌詞エリアのインラインダイアグラム、PDF エクスポート）。スライダーはコード選択ダイアログにあります。なぜならそこでカードのグリッドに対して変更をプレビューできるからです；ダイアログを閉じてでも選択は保持されます。
- カードをタップして、そのフィンガリングを 割り当て ます。デスクトップでカードをダブルクリック すると、1回のアクションで割り当ててダイアログを閉じます。

>  Pro 機能 -- カスタムダイアグラムの作成または編集には、アクティブな Songbook Buddy Pro サブスクリプションが必要です。組み込みダイアグラムの表示と割り当ては無料プランでも動作します；コード記号フォントスライダーも Pro です。



フィンガリングの編集または作成 (Pro)

コード割り当てダイアログには、コードエディタ  を開く小さな  ボタン（または編集）があります。そこで、フレットボード上で直接フィンガリングを構築または変更できます：








- フレットをタップして指を置く；ナットの上をタップして弦を オープン (O) または ミュート (X) にマークします。
- 同じフレットで複数の弦をまたいで水平にドラッグして、バレー を描きます。
- 下部の 指 チップで、各音符に指番号 (1~4) をラベル付けできます -- 印刷シートや、左手のどの指を使うかをユーザーに示すのに便利です。
- 基準フレット  /  で表示中のフレットボードウィンドウをシフトします；最低フレットが 1 を超えると、ダイアグラムは自動的に「Nfr」ラベルを表示します。
- プレビュー は SoundFont エンジンを通じてコードを再生するので、保存前に形状を聴けます。
- 保存 は、コード名+楽器+チューニングに紐づくカスタムフィンガリングを書き込みます。コピー は既存のフィンガリングをオリジナルを変更せずに新しい編集可能なものに複製します。

組み込み（ファクトリー）ダイアグラムは読み取り専用です；自分の編集可能なバージョンを派生させる方法は  コピー です。クラウド同期が設定されているとカスタムダイアグラムはデバイス間で同期され、アプリ内のすべてのコードチャートで組み込みのものと並んで表示されます。

フォーマットサイドバー -- 使用コード

曲フォーマットサイドバーの **楽器** タブで、使用コード  ダイアグラムサイズは  現在の曲の楽器に適用され、コードタブのサイズと同じ方法で（楽器名ごとに）保存されます。

曲プレビュー -- 使用コードストリップと歌詞

使用コードダイアグラム  がプレビューの  横 または  上に表示されているとき、そのストリップはクイック  割り当て（タップ）と歌詞エリアへの  ドラッグ 用です。右クリック  コードメニューは、そのストリップではなく  歌詞プレビューのコードに適用されます（ChordPro エディタ ヘルプを参照）。

プレビューとコードタブの色

既定では、曲レンダリングビュー

のコードダイアグラム（歌詞内のインラインチャート、サイド／トップのコードストリップ、フォーマット → 楽器 の「使用コード」グリッド）、コード割り当て ダイアログ、エクスポートされた PDF／印刷では、モノクロ ドットを使用してパフォーマンスや印刷時にページが落ち着くようにします。

設定 → 一般 で プレビューと PDF のカラーコードダイアグラム を オン にすると、曲プレビューと印刷で ルート / ベース / コードトーン のカラーが使用されます。コード タブでは、コードトーンカラーは常にオンです；ルートとベース のハイライトは ルートとベースのダイアグラムカラーで任意です（上記参照）。

インポートとエクスポート

サポートされる曲インポート形式

ファイル → インポート（単一ファイル）、フォルダをインポート（再帰的スキャン）、曲リストへのドラッグ&ドロップはすべて同じファイルタイプを受け付けます：

- ChordPro 形式の曲ファイル -- .cho、.chopro、.chordpro、.cpm、.crd、.gcp、.pro、.txt。内容は ChordPro（または曲ソースとして保存されたプレーンテキスト）として読み込まれます。
- テキスト抽出形式 -- .txt、.text、.doc、.docx、.odt、.pdf
。アプリはプレーンテキストを取り出します。行が歌詞の上のコードのように見える場合、ChordPro に変換されます。そうでない場合、テキストは曲本文として保持されます。
- ZIP アーカイブ (.zip) --
一時フォルダに展開されます。内部のサポートされたファイルは再帰的にインポートされます（__MACOSX などのジャンクエントリは無視されます）。

空のファイルとサポートされていない拡張子のファイルはスキップされます。重複（ライブラリにすでにある曲と
同じタイトルとアーティスト）はスキップされ、該当する場合はインポートサマリーに報告されます。

曲のインポート

- 単一ファイル -- インポートピッカーからサポートされたファイルを 1 つ選択します。
- フォルダ --
ディレクトリ内のサポートされたすべてのファイルをインポートします（再帰的にスキャン）。
- ドラッグ&ドロップ -- 1 つ以上のファイル、フォルダ、または ZIP
アーカイブを曲リストにドロップします。

インポートに失敗したものはダイアログで一覧表示される場合があります。サポート用にエラーログを保存 できる場合があります。

コードフィンガリングのインポート

コード


タブで、コードをインポート（ステータスバーまたは同等の場所）を使用して、アプリでサポートされて

いるフィンガリング定義ファイルを読み込みます。

エクスポート／バックアップ

設定 と メンテナンス タブを使用して、データベースのバックアップ／復元とレイアウトツールを実行します。印刷 と PDF フローはほとんどの場合、生の ChordProではなく整形された出力をエクスポートします -- 印刷と PDF を参照してください。

印刷と PDF

>  Pro 機能 -- アクティブな Songbook Buddy Pro サブスクリプションが必要です。

印刷ダイアログを開く

コンテンツのある 曲を選択 した状態で、ステータスバー または ファイルメニュー（デスクトップ）から 印刷 を選択します。ダイアログには右側にライブの複数ページプレビュー、左側にオプションが表示されます。満足したら 印刷、PDF を保存、または共有 を使用します。

レイアウトオプション

- フォント -- 本文テキストは曲設定の各セクションの表示フォントを使用します。ダウンロード済みフォントと、このコンピューターから追加されたフォント（デスクトップでは 設定 → フォント を介して）は、登録されているとき PDF に埋め込まれ、可能な限りプレビューに一致します。
- 表示項目 -- エクスポートされたレイアウトでの タイトル、アーティスト、キー / カポ、セクションヘッダー、コード、歌詞 を切り替えます（エディタプレビューで見ているものとは独立）。
- モノクロコード -- 印刷ダイアログの 歌詞 の下のオプションスイッチ：オン のとき、インラインのコード名とダイアグラム上のラベルはインク トーンを使用します；ダイアグラムの ドット はモノクロのままです（カラーコードダイアグラムを無視）。オフ のとき、コード名はブランドアクセント カラーを使用します；ドットの色は引き続き 設定 → 一般 の プレビューと PDF のカラーコードダイアグラムに従います。
- コードチャート -- ダイアグラムの表示位置を選択（例：オフ、行の上、曲の上または下、各ページに繰り返し）。プレビューに選択が反映されます。ダイアグラムの ドット カラーは、上記のとおりモノクロコード（印刷ダイアログ）と プレビューと PDF のカラーコードダイアグラム（設定 → 一般）に従います。
- 段組 -- 各シートに 1～4 段（サポートされている場合）。2 段以上 の場合、ChordPro の {cb}、{column_break}、または {colb} が単独のディレクティブ行にあるか、または歌詞／コード行に埋め込まれている 場合、その時点で続くテキストを 次の 段に移動します（最後の段の後、次の区切りは次のページを開始します）。
- ページ -- A4 の 縦向き または 横向き；プレビューとエクスポートされた PDF は選択を使用します。

- ヘッダー / フッター -- オプションのカスタムヘッダーとフッター行；フッターは右側に自動ページ番号を含めることができます。

印刷スケール

スケール は 20% から 200% まで実行され、歌詞、コード、間隔、ダイアグラムと一緒にリサイズして PDF が一貫した状態を保ちます。

コードサイズスライダー（独立）

印刷ダイアログの追加の

2

つのスライダーは、グローバル印刷スケールの上にコードレンダリングを微調整でき、曲設定のダイアグラムサイズスライダーとは完全に独立しています：

- コードダイアグラムスケール -- PDF
にコードダイアグラムが表示されるときに常に表示されます。歌詞行の上に表示されるインラインダイアグラムに影響します。
- コードチャートサイズ --
コードチャート（「使用コード」リファレンスカードのクラスター）が行の上以外の場所、例えばページの上、曲の下
などに配置されているときにのみ表示されます。インラインダイアグラムを膨らませることなく、より大きなリファレンスカードを印刷できます。

両方のスライダーはパーセント単位でスナップし、PDF 出力にのみ適用されます --
画面上のレイアウトは変更されません。

3つの方法で設定できます：

1. スライダー -- 1% ステップでドラッグします。プレビューはサムを離れたときに更新されます。
2. 数値ボックス -- パーセントを入力（例：115）してから Enter を押すかフィールドを離れます。値は 20～200 にクランプされます；% はフィールド内に表示されます。
3. 下げる / 上げる -- - と + はタップごとにスケールを 1% 変更します。

印刷スケールは PDF と印刷出力 のみのものです；エディタの画面上の 曲表示
スケールは変更されません。

必要条件

印刷には通常、利用可能な プリンター または PDF

対応のシステムサービスが必要です。一部のプラットフォームでは、システムの印刷シートで PDF として保存 が提供されます。

セットと高度なオプション

バージョンによっては、追加のターゲット（例：セットリスト）またはレイアウトプリセットが印刷 UI に表示されることがあります -- 画面上のセクションとプレビューに従ってください。

同期と設定

設定の概要

ステータスバーの [設定（歯車）](#) またはアプリメニューの [環境設定](#) を開きます。ダイアログにはいくつかのタブがあります：

- 一般 -- テーマ、言語、自動保存間隔、シアターモード中は画面をオンに保つ、関連する動作。（幅の狭いスマートフォンでの 横向き と シアター縦向き については はじめての操作 で説明されています。）
- フォント -- Pro：ダウンロード済み Google Fonts を管理、Google Fonts ライブラリを閲覧、デスクトップではフォント フォルダ を追加して、コンピューターからの .ttf / .otf を Songbook Buddy に表示。このコンピューター からアクティブ化したフォントを一覧表示。印刷 と PDF は、それらのフェイスが利用可能な場合、画面上の曲と同じフォントレジストリを埋め込みます。
- 同期と共有 -- ビルドで クラウド同期が設定されている ときに表示されます：アカウント、同期頻度、ステータス。同期が設定されていない場合、このタブは非表示になるか、同期が利用できないことを説明することがあります。
- メンテナンス -- インターフェース設定のリセット、バックアップ、復元、レイアウト管理、データベースの場所、破壊的な「危険ゾーン」アクション（下記参照）。
- 情報 -- バージョン、クレジット、このガイドと PDF マニュアルへのリンク。

クラウド同期

アプリが [クラウド同期用](#) に設定されている とき、アカウントと同期コントロールが [設定](#) に表示され、今すぐ同期 [が](#) [メニューバー](#)（アカウントの下）とステータスバーに表示されることがあります。手動同期をトリガーし、そこでステータスを確認できます。

同期が設定されていない場合、これらのオプションは非表示のままか、短い説明を表示します [--](#) ライブラリは ローカルのみ に残ります。

完全再同期（修復）

設定 → 同期と共有 で、完全再同期はこのデバイスからクラウドを再構築します：このアカウントの同期されたライブラリ全体がサーバー上で削除され、その後ローカルデータベースが再アップロードされます。これは日常的な「クイック同期」ではなく、デバイス間で同期の問題があるときにのみ使用すべきです。

他のデバイス：クラウドのみに存在し、完全再同期を実行するデバイスのローカルにはないものは、その操作によってサーバーから削除されます。同じアカウントの他のデバイスは、次の同期で主に現在のローカル状態を反映します。一般に、同期は最後に書き込んだものが勝つように動作します。

メンテナンス：データベース

メンテナンス タブの データベース セクションには、アプリがデバイス上で SQLite データベースファイル (songbook.db) を保存する場所が表示されます。そのファイルには、曲、ChordPro テキスト、コードライブラリデータ、Drift が永続化するその他のアプリ状態が含まれています。

- ライブ DB を 検査 または コピー する必要がある場合は、表示されたパスを使用してください（上級ユーザー）。
- アプリが書き込み中の可能性がある状態でファイルをコピーするのではなく、安全なスナップショットには組み込みの バックアップ アクションを優先してください。

バックアップは WAL チェックポイントを実行してディスク上のデータベースを一貫した状態にし、そのファイルのコピーを任意の場所（例：songbook_backup_YYYY-MM-DD.db）に保存できるようにします -- アーカイブまたは別のマシンへの移動に適しています。

復元

は、選択したバックアップファイルからローカルデータベースを置き換えます。これは現在のライブラリにとって破壊的です：そのバックアップからロールバックまたは移行するつむりの場合のみ進めてください。

メンテナンス：アプリ設定（UI のみ）

メンテナンス タブの 上部 には、すべてのアプリ設定をデフォルトにリセットは、インターフェース設定を出荷時のデフォルトに戻します：テーマ、言語、自動保存、サイドバーレイアウト、コードタブオプション、最後に開いた曲、印刷ダイアログのデフォルト、保存されたウィンドウ位置（デスクトップ）、インポートフォルダのショートカット、および同様の SharedPreferences データ。

曲、ChordPro テキスト、コード形状ライブラリ、同期アカウントデータ、または SQLite データベースに保存されているものは削除されません。続行する前にダイアログを確認してください；リセットが完了するとスナックバーが確認します。

メンテナンス：レイアウト管理

これらのアクションは曲の 表示
方法（フォント、スケール、ダイアグラムオプションなど）に影響しますが、ChordPro テキスト自体には影響しません。

- すべての曲のレイアウトをリセット -- 曲ごとの表示オーバーライドをクリアして、曲を既定の曲外観にフォールバックさせます（曲設定でデフォルトを微調整可能）。
- すべての曲にレイアウトを適用… -- 保存された表示レイアウト（アプリに保存されたレイアウトプリセット）がある場合、1 つを選んでその設定をライブラリのすべての曲に適用します。レイアウトが保存されていない場合、ボタンは利用可能なものがないと説明します。

確認ダイアログで何が変更されるかを説明します。

メンテナンス：危険ゾーン

ここでは特に注意してください；確認後にアクションが元に戻せない場合があります。

- アーカイブ済みの曲を削除 -- 以前にアーカイブした曲をライブラリから完全に削除します。
- ローカルデータベースを消去 -- ローカルデータベースを削除してアプリを終了します。次回起動時にはクリーンなライブラリが得られます（クラウド同期が有効な場合、設定に応じてサーバーから再投入される可能性があります）。

各確認をよく読んでから受け入れてください。


アプリのデバッグログ（トラブルシューティング）

メンテナンス タブには
アプリデバッグログレベル（なし、基本、詳細）も用意されています。有効にすると、アプリは匿名化された診断行（プレフィックス [AppDebug]）を開発者コンソールに出力します --
エッジケースとサポートに役立ちます。ステップバイステップの手順、プライバシーノート、出力を表示する場所については、このガイドの [アプリのデバッグログ](#)
[ヘルプチャプター](#)を開いてください（ヘルプ検索ボックスで「debug」を検索）。

ヘルプとマニュアル


この [ユーザーガイド](#) はアプリに組み込まれています。PDF [ユーザーマニュアル](#) は同じトピックを 1 つのファイルにまとめ、アプリの外でオフラインで読んだり印刷したりできます。利用可能な場合、サポートされている各 [UI](#) [言語](#)に対応する [PDF](#) が同梱されています；ファイルが欠落している場合、アプリは [英語](#) にフォールバックします。

バンドモード

>  Pro 機能 -- アクティブな Songbook Buddy Pro サブスクリプションが必要です。







バンドモードでは、バンドを編成し、音楽編成を管理し、セットリストをバンドに割り当て、招待コードを介して他の Pro
アカウントとバンドを共有し、ライブセッション同期を使用して演奏中に全員を同じ曲に合わせ続けることができます。

バンドモードの場所

- バンド タブ（サイドバーアイコン：）
サイドバーにはバンドが一覧表示されます；中央エリアの左側に選択中のバンドの詳細パネル、右側にアーティストピッカーが表示されます。
- 各セットリストの展開可能な詳細にある バンド
ドロップダウンで、そのセットリストをバンドに割り当て（または割り当てをクリア）できます。

ハイブリッドメンバーモデル

バンドのロスターはメンバー のリストです。すべてのメンバーには次のフィールドがあります：

- 表示名（必須） --
このバンドで表示される名前。同じ人物を異なるバンドで異なる名前で表示できます。
- アーティストリンク（任意） -- メンバーを アーティスト
ライブラリのエントリにポイントします。メンバーがあなたのライブラリにある曲を作曲または演奏する場合に便利 --
そのアーティストの曲はこのバンドメンバーにつながります。アーティストリンクのないメンバーはイタリックで音符アイコン付きで表示されます。
- 役割 / 楽器（任意、自由テキスト） --
例：「ボーカル」、「ベース」、「キーボード」。アプリはテキスト内の楽器を認識し、名前の前に対応するグリフを表示します。複数の楽器は、、、、、、
または「and」／「und」で区切ります -- 認識されたエントリごとに 1
つのアイコンが描画されます。認識されるカテゴリには、ボーカル、ピアノ／キー／オルガン／シンセ、ギター、ベース、ドラム／パーカッション、弦楽器（バイオリン、チェロ、ビオラ）、管楽器（サクソ、トランペット、フルート）が含まれます。不明な単語はスキップされます。

このモデルは意図的に ハイブリッド です：

- すでにライブラリのアーティストとして存在するミュージシャンの場合は、相互参照を緊密に保つためにアーティストにリンクします。
- セッションプレーヤー、ゲスト、またはアーティストとして追跡したくない人物の場合は、表示名を入力するだけです。アーティストリンクは不要です。

メンバーはローカルにのみ保存されます。アカウントにクラウド同期が設定されていない限り、何もデバイスから出ません。



メンバーの追加

バンド タブを開いてバンドを選択します。

- 自分自身を追加：ピッカーの上部に、アカウントの表示名とメールアドレスがあらかじめ入力された自分 セクションがあります。+ をクリックすると、自分用にアーティストエントリとバンドメンバーを 1 ステップで作成します。あなたの行には王冠アイコンと (あなた) ラベルが表示されます。このメンバーを編集するとメールフィールドが表示されます -- 招待フローで使用されます。
- 右側のアーティストピッカーから：検索ボックスに入力してから、行の隣の+ アイコンをクリックして、そのアーティストの名前を表示名にコピーしたメンバーとして追加します。すでにバンドにいるアーティストはチェックマークが表示されます。
- 名前のみで：ピッカー下部の 名前のみでメンバーを追加 をクリックします。アーティストとして追跡されていないミュージシャンに使用してください。
- メンバー追加アクションから：バンド詳細の左下のアクションバーの メンバーを追加 をクリックします。同じダイアログが開き、名前、任意のアーティストリンク、役割を入力できます。

保存ボタンは表示名が空でないときのみ有効になります。

メンバーの編集と削除




- メンバー行にホバー（またはタップ）すると、編集  と削除  アイコンが表示されます。
- 編集
は現在の値で同じダイアログを開きます。名前を変更したり、アーティストリンクを変更またはクリアしたり（クリアするにはドロップダウンの上部の (アーティストリンクなし) を使用）、役割を変更したりできます。
- 削除
は確認ダイアログの後にメンバーをソフト削除します。メンバーはすぐにリストから非表示になりますが、クラウド同期があれば同期履歴から復元できます。


ドラッグ&ドロップでの並べ替え

メンバーの順序は自由に並べ替え可能で、ローカルに永続化されます。


- 行を左側のドラッグハンドルでつかんで、目的の位置にドロップします。ドロップターゲット行の上にある青いバーが挿入スロットを示します；リスト下部の青いバーは「末尾にドロップ」を示します。
- ドラッグ中、メンバー名付きの小さな青いピルがポインターに追従します -- セットリストの曲を並べ替えるときと同じ見た目です。
- リストの外に行をドロップするとメンバーが削除されます。ゴミ箱アイコンと同様、元に戻す付きのスナックバーが表示されるので復元できます。

バンド自体の編集



バンドヘッダーには、バンド名が編集可能なタイトルとして表示されます（フォーカスを外したときにコミット）。  シェブロンを使用して  説明  フィールドを展開します -- これもフォーカスを外したときにコミットします。

アクションバーの  バンドを削除… を使用してバンドを削除します。曲とアーティストには影響しません -- バンドとそのメンバーシップ行が単純にソフト削除されるだけです。

セットリストをバンドに割り当てる

任意のセットリストを開き、詳細を展開（  ）し、バンドドロップダウンからバンドを選びます。セットリストは以前と同じように使用可能です -- 自動フィルタリングはありません。割り当てをクリアするには (バンドなし) を選択します。

バンドでセットリストをフィルター

セットリスト  タブのサイドバーツールバーには、アーカイブ切替の隣に  バンドフィルターボタン（グループアイコン）があります。次から選択します：

- すべてのバンド -- 制限なし（既定）。
- バンドなし -- どのバンドにも割り当てられていないセットリストのみを表示。
- 特定のバンド -- そのセットリストのみを表示。

フィルターがアクティブなときボタンは青で強調表示され、バンド名がアイコンの隣にインラインで表示

されます。フィルターはサイドバーリストにのみ影響し、検索とアーカイブの可視性とは独立してスタックします。

バンドの共有

バンドは他の Pro アカウントと共有できます。共有は オプトイン です -- バンドは招待を作成するまでローカルのままです。

誰かを招待する

1. バンドを開いて、アクションバーの 招待を作成 をクリックします（オーナーまたは管理者の場合に表示）。
2. 招待されたアカウントの 役割（管理者 / メンバー / ビューア）と TTL（コードが有効な期間：1 時間 / 24 時間 / 7 日 / 30 日）を選びます。
3. ダイアログには XXX-XXX 形式の 6 文字の招待コード が表示されます。コピー ボタンでコピーし、信頼できるチャネル（メッセージャー、メール、音声）で共有します。

コードは 1 回限りの使用です。引き換えると即座に期限切れになります。コードは短いため総当たりには不十分です -- 引き換えにもレート制限があります。

バンドに参加する

1. バンド タブで、サイドバーツールバーの バンドに参加 アイコン（ボックスへの矢印）をクリックします。
2. 6 文字のコードを入力または貼り付けます（ダッシュは任意、大文字小文字は無視）。送信します。
3. 成功するとバンドがサイドバーに表示され、自動的に選択されます。

コードが無効、期限切れ、すでに使用済み、または自分自身を招待しようとしている場合、ダイアログはサーバーが許可する以上の事例を漏らすことなく理由を伝えます。

役割とできること

| 役割 | バンド編集 | メンバー編集 | セットリスト編集 | セットリスト削除 | 招待作成 | 役割変更 | メンバー削除 |
|------|-------|--------|----------|----------|------|------|--------|
| オーナー | はい | はい | はい | はい | はい | はい | はい |
| 管理者 | はい | はい | はい | はい | はい | いいえ | はい |
| メンバー | いいえ | はい | はい | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ |

| | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ビューア | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

オーナー

のみがバンド自体を削除したり、他のメンバーの役割を変更したり、譲渡したりできます。オーナー以外なら誰でも、アクションバーの **バンドを退出** から **バンドを退出** できます。

共有バンドのメンバー管理

バンド詳細パネルの **アプリメンバー** セクションには、アクセスできるすべてのアカウントが一覧表示されます。各行にはメンバーの役割チップが表示されます。オーナーとして以下が可能です：

- チップをクリックしてドロップダウンから新しい役割を選んで 役割を変更 します。
- チップの隣のゴミ箱アイコンで メンバーを削除 します --
キックされたアカウントは次回の同期でアクセスを失います。

管理者もメンバーを削除できますが、昇格や降格はできません。

プライバシー：ユーザー列挙なし

バンドモードは「メールでユーザーを検索」や「すべてのアカウントを閲覧」コントロールを公開しません。共有はバンドオーナーまたは管理者が生成した **招待コードのみ** で機能します。アプリは設計上、特定のメールや名前にアカウントがあるかどうかを **決して** 確認しません。

同期と競合解決

バンドモード行は、アプリの他の部分と同じローカル同期アウトボックスに参加します。共有バンドの場合、競合は フィールドレベルで最後に書き込んだものが勝つ で解決されます：

- 同じバンドまたはメンバーの異なるフィールドを編集する 2 つのデバイスはきれいにマージされます。
- 短い時間内に同じフィールドを編集する 2 つのデバイス：最新の書き込みが勝ちます。もう一方の編集は置き換えられます。
- メンバーの並べ替え
を並行して行った場合、以前の移動が失われる可能性があります。あなたとバンドメイトが同じセトリストをオフラインで両方再シャッフルすると、再接続したときに最後の再シャッフルのみが残ります。実用的なアドバイス：可能であれば、大きな並べ替えは一度に 1 人で行うべきです。

バンド曲と自分のライブラリ

共有バンドのセットリストに表示される曲は **共有バンド曲** です --
その内容（タイトル、アーティスト、歌詞、コード、テンポ、キー、カポ）はバンドのキーで暗号化されてサーバーに存在し、バンドの全員と共有されます。ユーザーごとのフィールド（移調、表示、再生設定、プライベートメモ、評価）はアカウントにローカルのまま残ります。

リスト行のアイコンでどちらかわかります：

- **ロックアイコン** --
これはあなたが所有していないバンド曲です。表示したり、自分用に移調したり、自分の表示／再生設定を変更したりできますが、タイトル、歌詞、コードチャートは編集できません。曲のオーナー（またはバンドオーナー／管理者）のみが編集できます。
- **ロックなし** -- バンドのセットリストに表示されていても、これは自分の曲です。

自分のライブラリにコピー

バンドを退出した後もバンド曲で作業を続けたい場合や、独自のバージョンを分岐したい場合は、曲を開いてアクションメニューの **自分のライブラリにコピー** を使用します。アプリは現在の共有コンテンツでパーソナル曲行を作成します。あなたの編集はローカルコピーに反映され、バンドの他のメンバーには見えなくなります。

バンドの退出

アクションバーの **バンドを退出…** を使用します（オーナー以外の全員に表示）。確認後：

- **バンド、そのメンバー、そのセットリストはサイドバーから消えます。**
- **そのバンドからのみアクセスできた バンド曲 は、失わないようにあなたのライブラリのパーソナル曲に変換されます。最後に把握された内容を保持します；以前の移調／表示／再生のオーバーライドも一緒についてきます。**
- **元のバンドメイトは、バンドとその内容を変更されないまま保持します。**

オーナーは自分のバンドを退出できません；まずオーナーシップを譲渡するかバンドを削除してください。

よくあるエラーメッセージ

エラースナックバーは、何が問題だったかのヒント付きの短いメッセージを表示します。それらのほとんどは再試行で解決します；以下のものは、より具体的な意味を持ちます：

- この操作はバンドオーナーのみが実行できます --
バンドの削除や他のメンバーの役割変更などはオーナー専用です。
- オーナーまたは管理者のみがこの操作を実行できます -- 招待の作成とメンバーの追加。
- 読み取り専用 -- このセットリストはバンドのオーナーまたは管理者のみが編集できます --
共有バンドセットリストの Phase C ルール。
- 招待コードが無効か、すでに使用されています -- 新しいコードを依頼してください。
- 招待コードの有効期限が切れています --
同様；バンドオーナー／管理者に新しいコードを生成するよう依頼してください。
- 自分の招待を引き換えることはできません --
別の人のために生成するか、別のアカウントから参加してください。
- バンド共有には両方のアカウントに Pro サブスクリプションが必要です -- 招待者と参加者の両方に Pro が必要です。
- 試行回数が多すぎます。後でもう一度お試しください。 -- 短いレート制限ウィンドウ；1〜2 分待ってください。
- 暗号化がロックされています。バンドコンテンツのロックを解除するため再度サインインしてください。 --
このデバイスでバンドごとのキーがアンラップされていません。サインアウトし、メール+パスワードで再度サインインしてください（生体認証の再開だけではダメ）。
- ネットワーク問題。インターネット接続を確認してください。 --
オンラインに戻ると、同期は中断したところから続きます。

ライブセッション同期

バンドと一緒にリハーサルや演奏をしている間、1 人のメンバーが リーダーとして行動し、現在のセットリスト位置と再生フェーズを他の全員にブロードキャストできます。

- 誰が開始できるか：役割がメンバー、管理者、または オーナーのメンバー。ビューアはステータスを見られますが開始できません。
- 開始：バンド詳細パネルを開いてライブセッションを開始をタップします。あなたがリーダーになります。
- ステータス行：他のメンバーには「ライブ：リーダー ID がリードしています」が表示されます。再生中は小さなドットが青に、一時停止中はグレーになります。

- リーダーに追従：リーダーに追従
スイッチは既定でオンです。オンの間、ローカルアプリはリーダーが選んだ曲にジャンプします。
独立してスクロールするにはオフにします。
- リーダーにスナップ：追従をオフにしているとき、リーダーにスナップ
ボタンが表示されます。タップしてリーダーが現在表示している曲に戻ります。
- リーダーがオフラインに見える：リーダーは数秒ごとにハートビートを送信します。約 45 秒
間有効なものが届かないと、ステータス行がリーダーがオフラインに見えます
に切り替わります。オーナーまたは管理者の場合、引き継ぐ
をタップしてリーダーシップを主張できます。
- 信頼性：Songbook Buddy はバックグラウンドでサーバーからセッションと参加者データを更新
するので、多くのデバイスが参加したりリアルタイム更新が遅れたりしても、誰がオンラインか
が妥当に保たれます。
- 終了：終わったらリーダーがセッションを終了 をタップします。

カウントイン（リードタイム）同期

リーダーが曲に

リードタイム（実際に再生が始まる前のカウントイン秒数）を設定している場合、フォロワーはすぐに再生を開始しなくなります。代わりに、リーダーがブロードキャストするタイムスタンプによってネットワーク遅延を調整した同じリードインのカウントダウンをローカルで開始し、リーダーと同じ実時刻に再生に移行します。これは、自分の曲のリードタイムが 0
に設定されていても機能します；リーダーの値が全員のカウントインを駆動します。

セットリストフィルターのミラー

追従中、曲サイドバーの

セットリストフィルター

ドロップダウンは、リーダーのアクティブなセットリストを自動的にミラーします。セットリストタブに切り替えなくても、サイドバーでリーダーのセットリストの曲をめくることができます。リーダーに追従

をオフにすると、フィルターが切り離されます；別のセットリストを選択するか、フィルターを完全にクリアできます。リーダーに戻ると、ミラーが再び有効になります。

同期されない

もの：オーディオ、MIDI

ティック、または正確なテンポ。各デバイスは独自の再生タイマーを実行します；リーダーの更新はアンカー曲とフェーズのみを修正します。デバイス間のわずかなドリフトは正常です。

アプリのデバッグログ

アプリは実行中に オプションの技術的なメモ を記録できます。これらのメモは 匿名化されています：曲タイトル、歌詞、パスワード、その他の個人的なコンテンツは含まれず、件数、成功または失敗、短いカテゴリラベルのような粗い情報のみです。

レベルを変更するタイミング

- なし が通常の設定です。日常使用ではそのままにしてください。
- サポートから求められたとき、またはサポートと特定の問題に取り組んでいて詳細が必要なときにのみ、基本 または 詳細 をオンにします。
- 詳細 は最も詳細を追加します。サポートが要求したときのみ使用してください、ルーチンの使用ではありません。
- 終了したら、レベルを なし に戻してください。

デバッグレベルの設定方法

1. ステータスバーの 設定（歯車）またはアプリメニューの 環境設定 を開きます。
2. メンテナンス タブを開きます。
3. アプリのデバッグログ で、アプリデバッグログレベルを見つけます（ラベルは言語に翻訳されている場合があります）。
4. なし、基本、または 詳細 を選択します。
5. レベルを変更したら、アプリを再起動します。

バグレポートを送信する方法

1. ヘルプ → バグレポートを送信… を開くか、設定 を開き、情報 タブに移動して 問題を報告… をタップします。
2. 問題に最もよく一致するカテゴリを選びます。可能であれば、何が起きましたか？の下に短いメモを追加します -- これはサポートが問題を再現するのに役立ちます。
3. メール はオプションですが、サポートが返信する必要がある場合に便利です。
4. メールを開く… をタップします。診断情報が すでに入力された状態でメールアプリが開きます。そこからメッセージを送信してください -- 自分でコピーや貼り付けをする必要はありません。

メールアプリを開けない場合、アプリは次のステップを説明する短いメッセージを表示します。

プライバシー

診断情報は曲のテキストやその他のプライベートコンテンツを
ように設計されています。機密に見えるものを目にした場合、公開で共有しないでください
通常のチャンネルでサポートに連絡してください。

含まない

--

キーボードショートカットとホットキー

このチャプターでは、物理キーボードを使用するときに利用できるショートカットを一覧表示します。macOS と iOS（外部キーボード付き）では、主要修飾子は **⌘** (Command) です。Windows と Linux では Ctrl です。下記の組み合わせは、アプリの他の部分と同様に **⌘** / Ctrl を交換可能に表示します。

多くのデスクトップアクションはメニューバー（ファイル、編集、再生、移調、ヘルプなど）にも表示されます。テキストフィールドにフォーカスがある間、ショートカットは無効です。ただし、注記された場所（エディタの検索バー、ChordPro ソースエディタ）は除く。

編集

| ショートカット | アクション |
|---------------------|--|
| ⌘ F / Ctrl+F | ChordPro ソース フィールドまたは エディタ検索バーにフォーカスがあり、曲タブの検索 UI が許可されている場合（曲が選択され、再生／プレゼンテーション中ではない）：エディタで 検索&置換 を開きます。それ以外： 曲タブに切り替え、サイドバー検索フィールドにフォーカスします（タブに応じて曲、セトリスト、またはバンドをフィルター）。 |
| ⌘⇧F | 上記と同じ曲タブ／再生条件が適用される場合、ChordPro エディタで 検索（検索バー、置換行はオプション）を開きます。（Apple プラットフォーム。） |
| Ctrl+H | ソースエディタ または 検索バーにフォーカスがあるとき、ChordPro エディタで 検索&置換（Windows / Linux）。 |
| ⌘ G / Ctrl+G | 次を検索。 |
| ⇧⌘ G / Ctrl+Shift+G | 前を検索。 |
| ⇧ Enter | 検索バー で 前 の一致にジャンプ（Enter 単独では 次の一致を検索）。 |
| Esc | 検索バー を閉じる（フォーカスがあるとき）。Esc は 設定 ダイアログも閉じます。 |

| | |
|--------------|---|
| ⌘ E / Ctrl+E | ChordPro エディタ パネルを トグル（分割）。曲タブ、選択された曲、アクティブな再生またはプレゼンテーションがない ことが必要。編集 → エディタを切り替え と同じ。 |
|--------------|---|

元に戻す / やり直し（2つの異なる意味）

- ChordPro ソースエディタにフォーカス -- ⌘ Z / Ctrl+Z は テキスト 編集を元に戻します；⌘ ⇧ Z または ⌘ Y / Ctrl+Shift+Z または Ctrl+Y はテキストをやり直します。標準のエディタ動作。
- エディタにフォーカスなし（例：プレビューでコードをドラッグした後） -- ⌘ Z / ⌘ ⇧ Z / ⌘ Y（Ctrl の同等）は現在の曲のコードレイアウト変更に対するセッションの元に戻す／やり直しを適用します。

選択された曲に対してセッションの元に戻すが利用可能なとき、ステータスバーと 編集 メニューに元に戻す / やり直し が表示されます。

再生

| ショートカット | アクション |
|----------------|--|
| Space | 曲が読み込まれているときに自動スクロール／再生を再生 または 一時停止。テキストフィールドにフォーカスがある間は無視されるので、スペースを入力できます。 |
| Space を素早く 2 回 | 約 400 ms 以内の Space ダブルタップ：再生を 停止し、先頭まで戻る（メニューの 停止して先頭に戻る と同じ考え方）。2 回目の押下が後で来た場合、Space 単独はまだ再生／一時停止をトグルします。 |
| ⌘ T / Ctrl+T | プレゼンテーション／シアターモードをトグル（本文があるの曲が必要）。 |
| ⌘ . / Ctrl+. | 停止して先頭に戻る（ステータスバーコントロールのように）。テキストフィールドへの入力中は無視されます。 |

管理

曲とライブラリの操作、移調、ファイルアクション。

曲リスト（曲タブ、リストにフォーカス）

| ショートカット | アクション |
|---------------------|--|
| ↑ / ↓ | 選択を前／次の曲に移動。⌘ または Ctrl を保持しているときは 使用されません -- それらの組み合わせは 移調 用に予約されています（下記参照）。 |
| Page Up / Page Down | 約 1 ビューポート分の行で選択をジャンプ。 |
| Home / End | フィルターされたリストの最初／最後の曲にジャンプ。 |

移調（コンテンツのある曲；テキストフィールドでは無視）

| ショートカット | アクション |
|------------------------|-----------------------------|
| ⌘ ↑ / Ctrl+Up | 半音 上 に移調（アプリの上限内）。 |
| ⌘ ↓ / Ctrl+Down | 半音 下 に移調。 |
| ⌘ 0 / Ctrl+0 | 移調を 0 に リセット（オリジナル）。 |
| ⇧⌘ ↓ / Ctrl+Shift+Down | 移調を 0 に リセット（代替、移調メニューと一致）。 |

ファイル & アプリ

| ショートカット | アクション |
|--------------------------|--|
| ⌘ N / Ctrl+N | 新しい曲。 |
| ⌘ O / Ctrl+O | 曲ファイルをインポート。 |
| ⇧⌘ O / Ctrl+Shift+O | 曲の フォルダをインポート。 |
| ⇧⌘ E / Ctrl+Shift+E | 現在の曲の ChordPro をエクスポート（`.pro`）（ChordPro 本文が空でない）。 |
| ⌘⇧⌘ E / Ctrl+Alt+Shift+E | ChordPro ファイルの .zip として ライブラリをエクスポート。 |
| ⌘ P / Ctrl+P | 現在の曲の 印刷 / PDF（ChordPro 本文が空でない）。 |
| ⌘ , / Ctrl+, | 設定 を開く（macOS では ⌘, ; Windows/Linux では Ctrl+Comma）。 |
| ⇧⌘ S / Ctrl+Shift+S | 今すぐ同期（クラウド同期が設定されており、すでに同期中ではない場合のみ）。 |

その他

プレビュー表示スケール（選択された曲）

| ショートカット | アクション |
|------------------|--|
| ⌘ + / Ctrl++ | 拡大 1 ステップ。フォーカスでルーティング：ChordPro ソースエディタ にカーソルがあるとき エディタフォントスケール を増加；レイアウト または シアター ビュー（テキストフィールドにフォーカスなし）では 曲表示スケール を増加。 |
| ⌘ - / Ctrl+- | ⌘ + と同じフォーカスルーティングで 縮小 1 ステップ。 |
| ⌘ → / Ctrl+Right | 曲表示スケール の代替 ズームイン。テキストフィールドにフォーカスがある 間は無視されるので、エディタ内のカーソルナビゲー ションに矢印キーが引き続き機能します。 |
| ⌘ ← / Ctrl+Left | 曲表示スケールの代替 ズームアウト（上記と同じ注意点）。 |

曲表示のステップは 曲設定 スケールと スマートフォン プレビューでの ピンチ に一致します。大型タブレット はステータスバーまたはこれらのショートカットを使用します -- プレビューでのピンチではありません。エディタフォントスケールは 設定 → エディタフォントサイズ と同じコントロールです。両方の範囲はアプリで上限が設定されています。

ダイアログ

- Esc はダイアログにキーフォーカスがあるとき 設定 を閉じます。
- Esc はツールチップが表示する場所で 検索 / コードダイアログを閉じます。

プラットフォーム注記

- ハードウェアキーボード付きの iPad / iPhone：アプリが公開している場所では ⌘ 列に従います。
- ショートカットが何もしない
場合、正しいタブがアクティブか、曲が選択されているか、再生がエディタを上書きしていないか、
フォーカスが TextField 内にはないかを確認してください。

OS 標準ウィンドウとアプリショートカット

これらはプラットフォームメニューを介してワイヤリングされているので、OS

が期待される正確な動作を提供します。

macOS

| ショートカット | アクション |
|---------|---|
| ⌘ H | Songbook Buddy を非表示。 |
| ⇧⌘ H | 他のアプリケーションを非表示。 |
| ⌘ M | ウィンドウを最小化。 |
| ⇧⌘ F | ネイティブのフルスクリーンをトグル。（⌘ T シアターモードとは異なる -- そちらはアプリ内です。） |
| ⌘ Q | アプリケーションを終了。 |
| ⌘ W | 最上位のダイアログまたはポップアップを閉じる。閉じる対象が何もないとき、これは何もしません（アプリはシングルウィンドウ）。 |
| ⌘ S | 保存の確認。エディタは継続的に自動保存します；⌘ S を押すと筋肉記憶のために短い「保存しました」トーストが表示されます。 |
| ⌘ ? | アプリ内 ヘルプ 画面を開く。 |

Windows / Linux

| ショートカット | アクション |
|----------|--|
| Alt + F4 | 終了（境界保存付き）。 |
| Ctrl + Q | 終了（Linux）。 |
| Ctrl + W | 最上位のダイアログ／ポップアップを閉じる。 |
| Ctrl + S | 「保存しました」トースト（自動保存は継続的）。 |
| F1 | アプリ内 ヘルプ 画面を開く。（macOS でも動作。） |
| F11 | シアターモードをトグル。（macOS は ⌘ T をシアターに、⇧⌘ F を OS フルスクリーンに使用。） |

キーワード

ホットキー、ショートカット、キーボード、Command、Control、Space、移調、検索、置換、元に戻す、やり直し、同期、印刷、設定、エディタ切替、ChordPro エディタ